

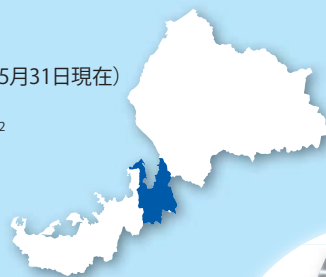


# わがまち 自慢

～市長室から～

## 敦賀市データ

【人口】  
66,652人  
(平成29年5月31日現在)  
【面積】  
251.39km<sup>2</sup>



「リンゴ型タオル」



人道の港 敦賀ムゼウム



人道の港 敦賀ムゼウム 内部

## リンゴの逸話が示す 「やさしき」

昨年開催された伊勢志摩サミットでの土産品を詰めたサミットバックに、地方自治体として、敦賀の「リンゴ型タオル」が封入品に選ばれました。

実はこのリンゴは、敦賀の人々の「やさしさ」を象徴したもので、敦賀港が「人道の港」と呼ばれるようになった逸話にちなんでいます。

第二次世界大戦当時、ヨーロッパにおけるナチス・ドイツの迫害に苦しむ多くのユダヤ人難民に対し、リトアニア領事代理だった杉原千畝が第三国への「通過ビザ」を発給しました。いわゆる「命の

ビザ」です。

このビザを手にした約6,000人のユダヤ人難民は、遠路、シベリア鉄道でウラジオストクへ向かい、日本海を渡って敦賀港にたどり着きました。

その時、上陸したユダヤ人難民に対し、銭湯の無料開放や宿の提供など、敦賀市民は、様々なおもてなしをしました。ある時、港から駅へと歩くユダヤ人難民たちに、一人の少年がリンゴを差し出します。すると、ユダヤ人難民は、そのリンゴを皆で一口ずつかじって回りました。長い旅路を終えた安堵の思いと、敦賀の人々の優しさを、一つのリンゴで共有したのです。

これらの逸話に象徴されるように、敦賀の人々は「やさしさ」「寛

容さ」を持っています。私は、この「リンゴ型タオル」で、敦賀の人々、ひいては日本人の「やさしさ」「寛容さ」を世界に発信したいと要請し、サミットバックの封入品に加えていただきました。

この他にも、幕末に、流浪の果てに敦賀で捕まり処刑された武田耕雲斎率いる水戸の天狗党の人々を、敦賀市民は丁重に埋葬し、神と祀っています。今でも水戸の方々に感謝されるとともに、姉妹都市として深い交流が続いています。

このような逸話は、敦賀の人々にとっては、何の気負いもない当然の行為でした。こうした「やさしさ」と「寛容さ」こそ、敦賀の人の強み、敦賀

の発展の源でしょう。市の産業団地に来ていただいた企業さんからは、「敦賀で雇った人は誠実で、勤勉ですね」という声を多くいただいています。

そんな人々の人柄が敦賀の宝です。最も自慢できる「宝」だと思います。

## 交流の歴史が育んだ 市民性

実は、私自身は九州の出身ですが、この地に来て以来、敦賀の人々の「やさしさ」に触れてきました。

そして支えられてきました。敦賀の人々の良さを、内外に発信していくことも、私の大きな役目だと思っています。

敦賀の人々の「やさしさ」は、古くからの歴史・風土の中で醸成されてきました。敦賀は古くから大陸と日本を結ぶ交通の要衝として栄えてきたまちです。

古くは古事記にも敦賀に関する記述が残っており、以来、それぞれの時代で敦賀は歴史の様々な舞台に登場しています。

江戸時代から明治中期にかけては、北前船の寄港地となり、北海道をはじめとする全国各地の食材や物資が数多く集められ、京都や他地方とを結ぶ物流の拠点として賑わいました。また、明治時代には敦賀ウラジオストク間の直通定期船の就航と、新橋く金ヶ崎間の欧亜国際連絡列車の運行によって、敦賀は国際都市として大きく



気比の松原



敦賀赤レンガ倉庫



旧敦賀港駅舎(敦賀鉄道資料館)

発展してきました。交通の要衝として古来より多くの人、モノ、文化が往来し、それを受け入れてきた地域だったわけです。そうした交流の歴史の中で、敦賀の人々の「やさしさ」「寛容性」が育まれてきたのだと思います。

また、敦賀は歴史の深いまちです。古からの歴史的な名所・旧跡が数多くあります。気比神宮はよく知られていますが、まだまだ、地域資源として掘り起こされていないものも多くあります。そのような意味でも、敦賀は多くの可能性を持つまちです。

### 先進的なまちづくりを目指して

長い交流の歴史の中で、もう一つ培われてきたものに、敦賀の人々が持つ先進性があります。

ご存知のように、原子力発電の草創期に、日本のエネルギー供給を支えることに誇りを持って、原子力発電所の立地地域になりました。昭和45年の「大阪万国博覧会」への初送電は敦賀からでした。

敦賀市は、今年で市制80周年を迎えます。今後の市制90年、100年に向けてさらなる発展を目指して、先進的なまちづくりを進めています。

現在、長期的な視点で取り組んでいるのが「ハーモニアスポリス

構想」です。これは、周辺の市町と協力し、市域・圏域を越えて広域的な経済圏・生活圏を形成しようとするものです。敦賀は、三方を山に囲まれ、平野も狭かったため、臨港工業地帯を形成できずにきました。一方、周辺の市町には港がありません。そのため、この構想では周辺地域との間の道路網を整備します。そして、工業地帯と敦賀港の間のアクセス向上や、港の利用拡大を図ることで、地域間の協調を重視した広域的な発展を図ることを目指しています。

また、この「ハーモニアスポリス構想」の一つの取り組みとして、水素社会の実現に取り組んでいきたいと考えております。エネルギー供給都市としての役割を担ってきた敦賀には、送電網などのインフラが整っています。

そのため、原子力発電に加え水素発電を実施することで、CO<sub>2</sub>フリーの国産エネルギーの供給拠点として、今後のさらなる日本の発展に貢献できると考えています。また、敦賀に水素エネルギーの拠点を設けることで今後もエネルギーのパイオニア都市として貢献していきたいと考えています。

短期的な課題には、5年後の北陸新幹線敦賀駅開業に向けた受け皿づくりがあります。敦賀市は国土交通省の「景観まちづくり刷新支援事業」の全国モ

気比神社例大祭(福井県観光連盟提供)



敦賀港(福井県観光連盟提供)



清明神社



博物館通り



デル10地区の一つに選ばれました。この事業を活用し、観光客が降り立つ敦賀駅・気比神宮・敦賀港に至る市街地の整備を進め、観光客の回遊性が高まるよう整備を進めます。また、商店街などの事業者にご活躍いただくことで、観光客による消費拡大を促すとともに、それを事業者の販路拡大にも繋げていきます。

平成29年度は、「福井しあわせ

元気国体」のプレ大会の開催、外国クルーズ船『ダイヤモンド・プリンセス』の敦賀港寄港などのイベントが控えています。多くの人々が敦賀を訪れることとなりますから、敦賀が持つ地域資源をもとに、優しい「おもてなし」が活かされる良い機会となると思います。ぜひ多くの方に敦賀に来ていただき、人々の人柄に触れていただきたいと思いますね。(談)